



(公財) 中央果実協会

(03) 6910-2922

2025年2月第84号

写真: ウメ(池上梅園、東京都大田区)



目次

果樹農業の動向

- ・世界の柑橘類事情と市場動向(オレンジとオレンジ果汁) 1
- ・リンゴ生産者のための新たな生産費経営収支と損益分岐点 2

現地報告

- フランス 4
- タイ 5

トピックス

- ・米国 リンゴ産地は増大する気候変動の課題に直面 7
- ・フィリピン TR4と天候の影響でバナナ輸出4位に転落 7
- ・ニュージーランド産リンゴ、オーストラリア産ブドウ等のアジア向け輸出 7

果樹農業の動向

世界の柑橘類事情と市場動向(オレンジとオレンジ果汁)

米国内務省海外農業局 2025年1月30日 (一部抜粋)

オレンジ

世界の2024/25年度のオレンジ生産量は、ブラジルでの増産をエジプト、トルコ、米国での収穫量の減少が上回ったため、66万2千トン減の4,520万トンと予測される。生産量の減少に伴い消費量と輸出量は減少するが、ブラジルでの生産量の増加により加工仕向量は増加する。

ブラジルの生産量は、降雨と気温がより安定する好ましい天候により、70万トン増の1,300万トンと予測される。生産量は昨年よりは増加するものの、好ましくない暑さと柑橘類ベルトにおけるカンキツグリーンング病の増加により、一昨年の水準を250万トン下回る。出荷量の増加と搾汁用果実の収益性の向上により、加工に仕向けられる果実の増加が予想されるため、生鮮消費量は減少すると予測される。

中国の生産量はほぼ横ばいの760万トンと予測される。加工と輸出に仕向けられる果実が微増し、消費量は減少するものと予測される。

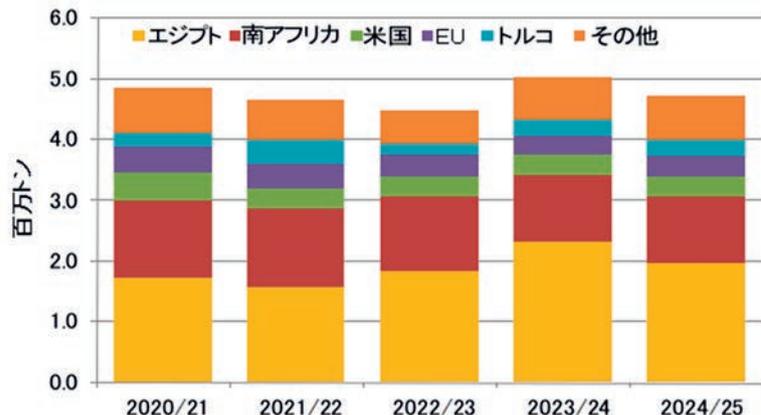
エジプトの生産量は、開花期と着果期の悪天候により、12%減の370万トンと予測される。供給量が減少する結果、消費量と輸出量はともに減少する。世界のオレンジ果汁の需要に合わせて加工することで付加価値を高めるため、加工仕向量は倍増するものと予測される。

EUの生産量は、干ばつによる収穫量の減少とイタリア産の小玉化により、7万トン減の570万トンと予測される。生産量の減少に伴い生鮮消費量と加工仕向量は減少すると予測される。生産量の減少にも拘わらず、オレンジの品質が高いため輸出量は増加すると予想される。輸入量は供給量の減少に伴い増加すると予測される。主要な供給国は引き続きエジプト及び南アフリカであると予想される。

メキシコの生産量は、10万8千トン増の510万トンと予測される。これは、遅い降雨によって大玉化すると予想されるためである。生産量の増加に伴い消費量は増加すると



世界のオレンジ輸出量はエジプトの減少とともに低下



予測されるが、加工用及び輸出用の果実は横ばいと予想される。

米国の生産量は、悪天候と継続的な病害、特にフロリダ州のキャンキツグリーニング病のため、10%減の220万トン(88年間で最低の水準)と予測される。フロリダ州の生産量は33%減少し、カリフォルニア州の生産量は1%減少すると予測される。供給量の減少により、加工仕向量と生鮮消費量は減少する。輸出量が横ばいである一方、輸入量は生産量の減少に伴い増加する。

南アフリカの生産量は、好天と収穫面積の微増により、1%増の170万トンと予測される。需要が高い加工用に仕向けられる果実が増えると予想され、消費量は横ばいで、輸出量は減少する。EUが、引き続き最大の輸出市場であると予想される。

トルコの生産量は、開花期の悪天候により収量が低下し、3分の1近くの減少となる160万トンと予測される。生産量の減少に伴い、消費量は減少すると予測されるが、輸出量は横ばいである。

モロッコの生産量は、開花期の良好な天候条件と点滴灌漑の採用の増加により、1万7千トン増の96万トンと予測される。生産量の増加に伴い、生鮮消費量、加工仕向量、輸出量はそれぞれ増加すると予測される。EUが引き続き最大の輸出市場であると予想される。

オーストラリアの生産量は、好天と収穫面積の増加により、2万5千トン増の54万5千トンと予測される。供給量の増加に伴い、生鮮消費量と輸出量は増加する。

オレンジ果汁

世界の2024/25年度のオレンジ果汁製造量は、ブラジルとメキシコでの増産が米国での減産を上回るため、4%増の140万トン(ブリックス値65換算)と予測される。消費量は減少するが、供給量の増加により輸出量は増加すると予測される。

ブラジルの製造量は、加工に仕向けられるオレンジの増加により、9%増の100万トンと予測される。供給量の増加に伴い輸出量は増加する一方、在庫量は横ばいと予測される。ブラジルは圧倒的に最大の製造国であり、世界のオレンジ果汁輸出量の4分の3を占めると予測される。

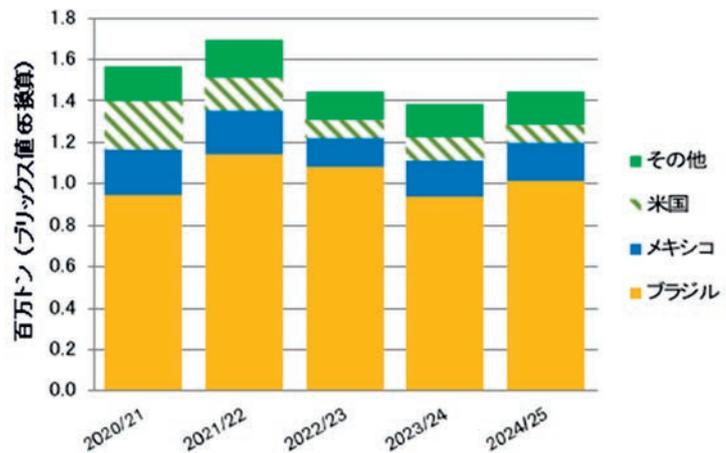
メキシコの製造量は、予想される果実のサイズと果汁含有量の改善により、4%増の18万7千トンと予測される。供給量の増加に伴いより多くが輸出に向けられ、輸出量が増加し、国内消費量は減少する。米国は引き続き最大の輸出市場であると予想される。

米国の製造量は、28%減で史上最低の8万トンと予測される。これは、加工に仕向けられるオレンジが特にフロリダ州で減少するためである。フロリダ州では、キャンキツグリーニング病による落果やハリケーン、寒波等の天候上の問題のため、原料果実の収量は減少し続けている。消費量は横ばいと予測されるが、製造量の減少に伴い、輸入量はわずかに増加する。製造量の減少に伴い、在庫量は減少すると予想される。

南アフリカの製造量は、加工に仕向けられるオレンジの増加により、4%増の5万7,100トンと予測される。消費量は価格の上昇により減少すると予測されるが、製造量の増加と世界的な需要の増加に伴い輸出量は増加すると予測される。

EUの製造量は、より多くのオレンジが輸出されると予想され、加工用の果実が減少するため、7%減の5万トンと予測される。ブラジルからの輸入量の増加見込みにより消費量は増加し、生産量の減少に伴い輸出量は減少すると予測される。

世界のオレンジ果汁製造量はブラジルの増加とともに上昇



リンゴ生産者のための新たな生産費経営収支と損益分岐点

Good Fruit Grower (2025年1月9日)

現在のリンゴ産業の不況を乗り切るための標準的なアドバイスは、果樹園の区画ごとの収支を利用して、どの果樹園が生産のための必要経費を賄っているか、どの果樹園が赤字になっているかを把握することである。

今回、ワシントン州立大学の経済学者が作成した新たな生産費経営収支(集計表プログラム)は、各生産者がそのような質問に答えるのに役立つ。この生産費経営収支は、業界が直面している経済危機をより適切に話

し合うためのツールにもなる。

普及担当の経済学者カーリーナ・ガジャルド氏とスゼット・ガリナート氏は、10年以上にわたって果樹生産者向けに生産費経営収支を作成しており、報告書の更新のたびに手法を改良しているとガジャルド氏は語った。2024年のハニークリップ、ガラ、グラニースミス、WA38の生産費経営収支では、果樹普及専門家のベルナルディタ・サラート氏と連携して、投入コストの上昇

と果実価格の横ばい・下落のはざままで苦しめられている生産者にとって最も現実的なシナリオを導き出した。

「我々は、ワシントン州立大学の普及担当が推奨するような農作業の水準に収めなかった」とサラート氏は語った。例えば、生産者は窒素施用をより効率的に行っていることから、肥料関係費は予想されるほどインフレによって増加していない。サラート氏は多くの生産者とやり取りを繰り返し、生産費経営収支に含まれるすべてのコストを微調整した。

「数字が現実的であるという意味で私たちは満足しているが、同時に業界に対して危機感を持っている」とサラート氏は語った。

なぜなら、この結論は生産者が過去1年間言い続けてきたことを示している。それは、特にガラなどの一般的品種では、収益が生産コストを十分に賄っていないということである。入力には、ワシントン州のAEWR(同州の2024年1月1日時点の季節農業労働者の1時間当たりの最低賃金)19.25ドルにH-2A(季節農業労働者ビザ)の固定費4.50ドル/時を加算して求めた2024年の人件費23.75ドル/時を使用している。総収益は2023~24年度でなく、2020年から2023年の業界データに基づいている。

ワシントン州立大学の生産費経営収支の分析ツールは、ワシントン州果樹協会のような業界団体にとっても有益であり、生産者が直面している困難について政策立案者と話し合う際にも使えると同協会会長のジョン・デヴァニー氏は語った。

さらに「これは、H-2Aの賃金上昇など、生産者のコスト削減にも限界があり、新たなコストを負担することも困難であることをよく示している」と続けた。

デヴァニー氏は、政策担当者からよく生産者に「損益分岐点価格」を提示できるか尋ねられるが、特に生産者の予算や営農選択はさまざまであり、答えるのは難しい質問だと語った。さらに、各生産者の年度計画に応じて、「損益分岐点」を定義する方法は複数ある。

そこで、経済学者たちは、新しい生産費経営収支において、成園での生産における各品種の「損益分岐点利益」という考え方をよく検討するため以下の4つの異なる評価の視点を提示した。

1) 変動コスト

2) 総現金コスト; 変動費に土地税、固定資産税、保険料を加えた現金費用の合計。生産者が短期的にビジネスを続けるのに必要なコスト。

3) 総現金コストと減価償却費の合計; 生産者が長期的にビジネスを続けるのに必要なコスト。

4) 総コスト; 3)の合計に、1エーカー(約0.4ヘクタール)当たり750ドルの一般管理費と金利コスト(生産者が別の資本投資を行った場合に得られるであろう5%の機会費用を含む)を加えたもの。

「変動コストは、園を維持するための最小コストである。そのやりくりができなければ、現金農業は続けられない。4番目のレベルは、既存果樹園の改植と新規園地の新植による長期的な経営をする機会コストをカバーする贅沢なものである」とガジャルド氏は語った。

良いニュースは、損益分岐点利益をこれら4つのカ

テゴリーに当てはめることで、生産者はどの果樹園が現在の市場低迷を乗り切ることができるかを現実的に評価することができる。

ガジャルド氏によれば「果樹は固定費が高く、収益が現金コストと経済的成本の中間に位置して、経済的成本をすべて賄っていない場合でも、まだ経営は可能である」という。

一方、悪いニュースは、ガラとグラニースミスの収益は28ドル/箱(40ポンド箱)未満で、2024年の栽培にかかる変動費さえ賄っていない。ワシントン州果樹協会のデータによると、過去5年間で、ガラの出荷価格(FOB価格、ここでは選果場(箱詰め)費用込みの価格)は24ドル/箱で、グラニースミスは26ドル/箱である。「我々の研究によると、30ドル/箱未満の価格では営農を持続できない」とガジャルド氏は語った。

研究者は悪いニュースを伝えることは楽しいものではないが、このツールの価値は現実の状況を可能な限り表現することにある、と同氏は付け加えた。

ハニークリスポでは、生産費経営収支は出荷価格44ドル/箱に基づいており、これで総現金コストと減価償却費の合計をなんとかカバーできる。同様に、コズミッククリスポとして販売されているWA38は、ハニークリスポよりも高い収量と生果出荷割合のため、35ドル/箱の出荷価格で総現金コストと減価償却費の合計を賄うことができる。しかし、どちらも一般管理費や金利コストを含む総コストをカバーするまでには至っていない。

この生産費収支は、変化に取り組む業界にとって常に有益だが、段階的に「損益分岐点」を評価する方法は現在特に価値がある、とワシントン州ワパトの生産者でワシントン果樹研究委員会の委員長を長年務めるジム・ドアニック氏は語った。

「問題は、『儲からない状態にどれだけ近づいているか』ということである。ガジャルド氏の生産費経営収支で、投資収益や改植準備金を含めなければ、数年間は経営可能であるが、10年もすると古い品種が残り、改植のための準備金がなくなる」とドアニック氏は語った。

生産者が、集計表プログラムをダウンロードすると、生産費経営収支は完全にカスタマイズ可能なツールになる。ワシントン州立大学は、今年初めにそのための説明ビデオを公開した。小規模果樹園でトラクターのメンテナンス費用を分散するような場合には、それを調整することもできる。摘果を強めたり、農薬を減らす場合には、独自の数値を使用して集計表を手直しできる。

サラート氏は、生産者に対し、このツールを利用して、各自の生産コストと公表されている推定値とをどのように比較するかの考え方を提供し、各自のデータで試すよう推奨した。

「私たちが耳にする最も重要なことは、生産者が果実品質に影響を与えずにコストを削減できるレベルを理解したいということである」とサラート氏は語った。

サラート氏や他の研究者にとっても、生産費経営収

支は作業の改善や新しい戦略・技術導入の価値についても明確にする。

「私が注目しているのは、我々研究者としてどのような分野で産業界に影響を与えることができるかである」とサラート氏は語った。例えば、より効率的な施肥管理に関するサラート氏自身の取り組みは、生産者が直面する人

件費の増加と比較して、わずかな節約にしかならない。しかし、施肥改善による品質向上と生果出荷割合の増加は、すぐに収支式の反対側に大きな違いが生まれる。「そうすれば物事を大局的に見るのに役立つ」とサラート氏は語った。

ケイト・ブレンガマン

生産費経営収支(集計表プログラム)の集計結果

集計項目	リンゴ品種(園地)	グラニースミス 	ガラ 	WA38 	ハニークリスピー 
1エーカー当たりの推定総出荷数量		63ビン	63ビン	62ビン	51ビン
1ビン*当たりの出荷価格(FOB)		\$455	\$444	\$648	\$704
(1ビン*当たりの選果場(パッキング)料)		(\$316)	(\$324)	(\$348)	(\$315)
1ビン*当たりの生産者収益		\$139	\$120	\$300	\$389
1エーカー当たりの総収益		\$28,756	\$28,061	\$40,404	\$35,693
1エーカー当たりの変動コスト		\$12,320	\$14,227	\$13,112	\$15,037
1エーカー当たりの総コスト**		\$43,522	\$46,543	\$46,031	\$43,773

数字は0.9m×3m間隔で植栽されたトールスピンドルトリス仕立ての成園でトレーニングされた作業者が収穫したと想定。

*ビンとは、収穫、輸送、貯蔵用に使われる容器で、リンゴを400kg程度まで収納可能(詳細は、海外調査報告140「米国ワシントン州のりんご生産の現状と省力・機械化技術に関する調査報告書」JP24を参照)。

**総コストには変動コスト、土地税・固定資産税、保険料、減価償却費、一般管理費、園地の償却コストが含まれる。

現地報告

フランス : 忘れられていた壊血病の増加

フランス現地情報調査員 ジャンリュイ・ラルリュ

2024年12月に、フランスの小児科専門のロベール・ドゥブレ病院の医師を中心とする研究者達は、イギリスの医学雑誌ランセットに、フランスにおいて壊血病が増えているという論文を発表した。壊血病はかつて船乗りの病気とも呼ばれたもので、ビタミンCの欠乏により起こる。帆船時代の船乗りたちが新鮮な果実や野菜を食することなく、長旅を続けるような場合に起こる病気で、食料が豊富になった今日では、消滅した病気と考えられていた。ビタミンCはコラーゲン、血管、骨、その他の結合組織の維持に不可欠で、免疫性とも大きく関連していて、果実・野菜の摂取で確保できる。乳児の場合は、母乳で取得できるが、加熱や殺菌されていないことが条件である。フランスの国立食料・環境・労働衛生安全庁(ANSES)は、大人の1日あたりのビタミンCの必要量を110mg、3歳までの子供については20mgとしている。1日の摂取量が10mg以下だと1~3ヶ月の間に壊血病が発達しかねない。具体的には、傷の治癒が遅れ、粘膜皮膚の出血、髪の毛の縮れ(螺旋状毛髪)、骨の痛みなどが現れる。

この論文は、2015年1月から2023年11月までの9年間にフランスで壊血病と診断された18歳未満の子供、888人を対象に行った調査を基にしている。珍しい病気ではあるが、件数は増えている。この論文によると、2015年から毎月0.05%で増えていたが、コロナ禍以

降の2020年からは毎月0.19%と大幅に増えたようだ。子供は骨の激しい痛み、筋肉の痛みを訴え、全体的に体調も悪化し、場合によっては歯茎からの出血も見られた。多くの場合、子供の機嫌は悪く、身体に触られるとパニック状態になる子供もいた。論文は、子供の壊血病の増加と、コロナ以降のインフレとの相関関係を指摘し、行政に対して、的を絞った栄養確保の対策などを取るように提案している。

この論文で、壊血病についての医学会の対応にも問題があったことが分かる。ごく最近まで、多くの医師が壊血病について、無知であった。入院に至るような重症のケースでも、診断が下されるまでにかかりの時間がかかっている。昨年あたりから、医学界では壊血病が増えているという認識が出始めているものの、この論文が発表されて、テレビや新聞で広く報道されるまでは国民レベルでは、壊血病はほとんど忘れられていた。子供が下肢部の痛みや歩行困難などの症状を訴えても、ほとんどの場合、医師は壊血病の可能性を思い浮かべることがなく、白血病や骨髄炎など他の病気を疑って、そうした疾患に関係する検査をし、抗生物質などを投与して、期待する反応が得られずに、やっと、ビタミンCの含有量を調べるために血液検査をするという具合で、そこに到達するまでにかかり時間がかかっている。

この調査によると、壊血病と診断された子供の多くが栄養失調を伴うため、全体的に十分な食事を取得していないと分かる。そのため、インフレが大きく影響していることは確かであるが、私(筆者)には、その他に、食事のあり方が近年変わってきていることも影響しているのではないかと思われる。最近、スーパーやハイパーに行くと、電子レンジで温めるとすぐに食べられる調理済みの食品がずらりと並んでいる。そうした食品には栄養を考慮したものもあるようであるが、大半が加熱、加圧で殺菌処理されている。それだけで食事をしていれば、ビタミンCの確保は難しい。そして、そうした食料品は、とにかく手間がかからない。そうした簡易さに慣れてしまうと、果実を切ったり、皮を剥いたりするのも面倒になるのではないか。新鮮な果物などは腐らせないように保存も気にしなくてはならない。そうした手間を省こうとして、真空パックに入ったデザート用スイーツなどを、お腹が空いた子供が勝手に食べるようにしている家庭が出てきても不思議ではないような気がする。

壊血病に関わる2022年のLe Monde紙によると、こうしたことはフランスだけではないようだ。スイスの裕福な家庭の5歳の男児が骨の痛みを訴え、歩きたがらないことからジュネーブの病院に入院し、一般小児科から始まって、様々な専門医に診てもらい、様々な検査を受けたが、病気は特定されなかった。医師がその少年や親にさらに問診を続けて、離乳に失敗し、それ以来、チーズとスイーツしか食べていないことが判明した。ビタミンCと葉酸塩の補給で、痛みは大幅に軽減されたようだ。しかし、今後も継続して診察する必要があるとのことである。米国でも同様の例が報告されている。また、2022年2月に、フランスのルーアン市の病院の医師は、米国の救急医療学会の専門誌のサイト(JACEP Open)に高齢者の壊血病のケースを報告している。64歳の女性は捻挫の後、左の足首に激しい痛みがあり、入院した。この女性は喫煙、飲酒が多く、また社会的にも孤立していた。検査で、肝臓に問題があり、葉酸塩の欠乏がみられたが、貧血ではなかった。検査の前の問診時には、コロナ禍でマスクをしていたが、検査後の診察で、マスクを取ると、歯がかなり抜けていることが分かり、医師は壊血病を疑った。血液検査で

ビタミンCが著しく欠乏していることが判明したようだ。

生のオレンジ1個で約100mgのビタミンCが確保できる。私などは果実を食べる時は、幸せなひとときだと感じるのも、その楽しみを自分で味わわないのは勿体無いような気がするし、子供に与えないというのも罪作りなことだと思う。日本に比べて、一般的にフランスの果実は見栄えは良くなく、価格は低い。なぜ、子供にもっと果物を食べさせてあげないのか、不思議な気がするが、最近、大学生が十分に食事をできないので、スーパーなどでサンドイッチなどの食品を盗むケースが増えているというニュースを聞くと、そこまで貧困が広がっているのかと愕然とさせられる。

国連保健機構(WHO)の2003年の勧告に従って、フランス政府は2007年から「毎日5つ(サービングサイズ)の果実・野菜(をとりましょう)」というキャンペーンを繰り広げている。これは、戦後、フランスでも肉の消費量が増えて、果実・野菜の割合が減ってきたことから、主に、ガンや循環器系の疾患予防を目指したものである。フランスでは1999年から、果実・野菜の生産者、卸業者、小売店などの団体が構成しているINTERFEL(フランス果実・野菜業際組織)が「毎日10個(の果実・野菜を食べましょう)」運動を推進していたが、これを10個から5個に減らして、行政レベルで継承した。しかし、最近は、そうしたキャンペーンもマンネリ化して、あまり注目されていないようにも見える。新鮮な果実・野菜を摂ることが、面倒臭くても、大切なことだということを丁寧に、幅広く説明する努力が一層必要であるし、もっと安価な生鮮果実を生産し、販売するシステムの構築や、また、新鮮な果実や野菜を手軽に摂取できる方法(パッケージなど)を考え出すことも必要と思われるが、フランスでは最近、プラスチックの害が大きく取り上げられていて、いかにプラスチックを減らすかが問われている中で、環境負荷の少ない、手軽な方法を追求することが求められている。

タイ : フルーツツーリズム (食文化と観光業を結ぶ新たな魅力)

タイ現地情報調査員 宮谷内 泰志郎

タイは観光業が主要産業の一つであり、コロナ禍により大きな影響を受けた。

しかし、2023年以降、観光業は急速に回復し、フルーツツーリズムがそれに貢献している。

タイのGDPに占める観光産業の割合:

観光産業はタイのGDPの約20%を占め、経済の重要な柱となっている。

2019年には約20.3%を占めていたが、コロナ禍で2020年は8.2%、2021年は5.8%に低下。2024年の実績値はまだ公表されていないが、約20%に達すると見込まれている。観光業の成長は経済を牽引し、関連産業も含め約10%の雇用を支えている。

フルーツツーリズムが観光業に貢献している理由:

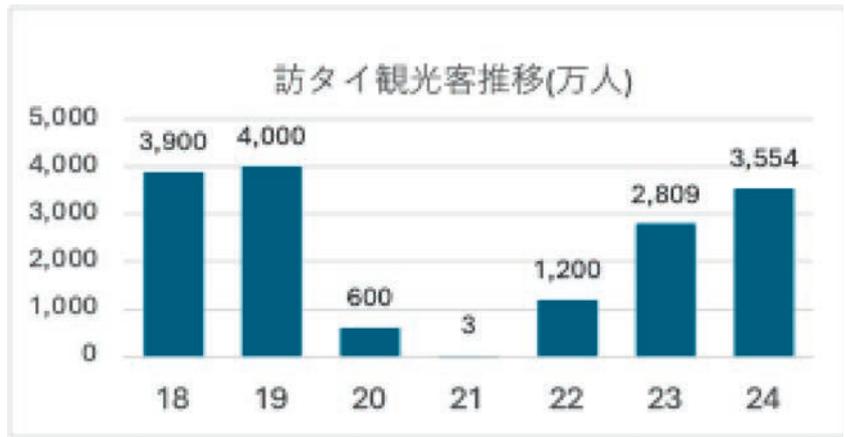
タイの食文化においてフルーツは、デザートやスイーツで重要な役割を果たしており、特に、マンゴースティックやライスやドリアンを使ったデザートなどが観光客に新しい体験を提供している。これにより、フルーツは単なる観光資源にとどまらず、タイの食文化を体験する重要な要素となり、観光目的としての価値が高まっている。また、フルーツデザートは写真映えし、若い世代のユーザーがSNSに投稿することで、タイへの認知が広がっている(巻末の写真参照)。

タイ国はオーバーツーリズム防止と、観光客を都市部から地方へ分散させることで観光収益分散化施策

タイ5F 戦略（観光業概念）

- Food(食):
- Fight(格闘技):
- Fashion(ファッション):
- Film(映画):
- Festival(祭り):

※これらの施策により、タイの観光産業は段階的に回復し、観光業が経済回復に貢献する重要な役割を果たしている。



引用:タイ政府観光庁

をも講じている。

具体的には、OTOP(One Tambon One Product; 一村一品)プログラムを活用し、各地域の特産品を支援することで、地方経済を活性化させ、観光収入を全国に行き渡らせることを目指している。

フルーツツーリズムとは？

フルーツツーリズムは、観光客が農園訪問や収穫体験、フルーツフェスティバルを通じて楽しむ体験型旅行スタイルで、FOOD(食)の観光にも大きく貢献している。タイにはドリアンやマンゴー、ランブータンなど特色ある果物が豊富にあり、多くの観光客を魅了している。

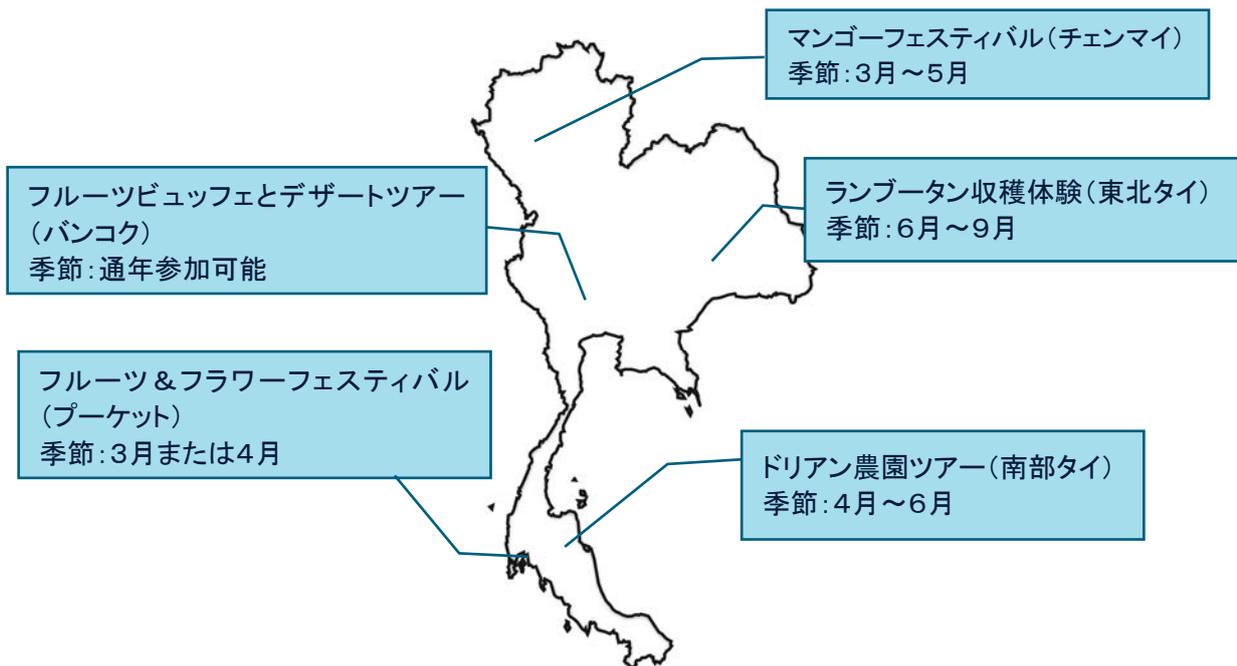
- ・フルーツ農園ツアー - 収穫体験や農園見学(ドリアン、マンゴスチンなど)
- ・市場巡り - ローカル市場でフルーツの試食・購入
- ・フルーツ料理体験 - マンゴースティックライス作りやフルーツカービング
- ・フルーツフェスティバル - ドリアンやマンゴー祭りで試食&イベント参加

・フルーツドリンク - 新鮮なジュースやスムージーを楽しむ

・フルーツ美容体験 - フルーツを使ったスキンケアやマッサージ。

これらのフルーツツーリズム活動は、タイの豊かな食文化と農業の魅力を深く知る機会を提供しており、観光客にはエンターテインメントだけでなく、教育的な価値提供ができる。コロナ後の観光業において、オーバーツーリズム問題の解決に貢献し、観光客の分散を促進した。さらに、体験型観光の需要に応えることで、観光客の関心を引きつけ、フルーツデザートやスイーツを通じた新たな食文化体験を提供した。

このようなユニークな体験は、SNSを通じて有機的に結びついた認知拡大を促進し、観光業の収入回復にも寄与した。



トピックス

1. 米国 リンゴ産地は増大する気候変動の課題に直面

FreshFruitPortal(2025年1月8日)

ワシントン州立大学(WSU)の調査によると、気候変動は、米国で最も重要ないくつかのリンゴ産地に大きな課題をもたらしている。

WSU Insider(同大学の学内サイト)は、研究者グループが、発芽、開花から果実の肥大、成熟、着色まで、リンゴの生育サイクルに影響を与えた40年以上(1979年~2022年)の気象条件を分析したと伝えた。

多くの産地が気候リスクの増大に直面しているが、ワシントン州ヤキマ、ミシガン州ケント、ニューヨーク州ウェインの3つの地域が最も影響を受けている。

同大学の気候学者でこの研究の著者であるディプティ・シン氏は、「我々が愛して止まないおいしいリンゴを当たり前だと思ってはいけない」と述べている。

同氏は、WSU Insiderが報じた声明の中で、「生育期間中の複数の時期に気象条件が変化すると、リンゴの生産量と品質に脅威を及ぼす可能性がある。今後は、リンゴの生育の様々な段階で、全体的な悪影響を最小限に抑える適応について考えることが有用だろう」とコメントしている。

具体的には、研究者たちは、リンゴの成長に影響を与える6つのパラメーターを調査した。そのうち2つは極端で、日焼けやその他の問題を引き起こす可能性のある非常に暑い日(34℃以上)と、リンゴの着色に悪影響を与える可能性のある暖かい夜(15℃以上)というものである。

考慮されたその他の要因は、寒い日の数、休眠打破に必要な低温量、春の降霜の最終日、及び成長温度日数(リンゴの成長を助長する一定の温度を超える日数)であった。

これらのパラメーターが変化すると、開花の時期が変わったり、日焼けのリスクが高まったり、またリンゴの外観と品質に影響を与えたりすることにより、リンゴの生産に悪影響を与える可能性がある。

共著者であり、同大学の樹木生理学者で、ウェナチー果樹研究普及センターでプログラミングを主導するリー・カルクシツ氏は、リンゴの木が多年生植物であることもあって課題は複雑であると指摘する。

同氏は、「様々な季節に起こることは、果樹の長期的な健康のほか、その特定の季節のリンゴの収量と生産性に影響を与える可能性がある。つまり、冬に起こることが春に起こることに影響を与え、それが今度は夏に影響を与え、そしてこのサイクルが続く」と説明した。

気候リスクの増大が予想される中、研究者らは果樹業界が適応するのを助けるための取組みを行っている。カルクシツ氏は、異常気象がリンゴとナシの作柄に与える影響を軽減することを目的とした、米国農務省の675万ドルの助成金によるプロジェクトを率いている。この複数機関の連携による取組みは、ワシントン州のリンゴ産地を始めとして全米で展開されている。

この研究は、学術誌Environmental Research Lettersに掲載された。

2. フィリピン TR4と天候の影響でバナナ輸出4位に転落

FreshPlaza(2025年1月15日)

国連食糧農業機関(FAO)の報告によると、フィリピンは2024年に世界のバナナ輸出国として、第3位から第4位に転落した。この変化は、悪天候と病害の影響を受けて、バナナの出荷量が3%減少したこと起因している。この後退にもかかわらず、フィリピンはアジア最大のバナナ輸出国としての地位を維持した。

同国の2024年のバナナの輸出量は前年の235万トンから227万8千トン減少した。FAOは、フィリピンの主要なバナナ産地であるミンダナオ島の生産可能面積を大幅に減少させたバナナの新病熱帯レース4(TR4)の影響を強調した。フィリピンバナナ生産者・輸出業者協会は、TR4の蔓延により、当初の栽培面積8万9千ヘクタールのうち、生産を維持できたのはわずか5万1千ヘクタールであったと報告した。

バナナセクターの課題は、南シナ海の地政学的な緊張によってさらに悪化し、一部の輸出に影響を及ぼした。フィリピン農業食品会議所のダニーロ・ファウスト会長は、降雨、洪水、干ばつ、ハリケーン、高い投入コスト、物流の問題など、それ以外の課題を列挙した。同会長は、これらの課題に対処するための科学的解決策と改善された技術的アプローチの必要性を強調し、このセクターの回復に対する懸念を表明した。

真菌性病害であるTR4は、バナナ生産に重大な脅威をもたらし、世界のバナナ供給の大部分を占めるキャンディッシュバナナに影響を及ぼしている。FAOは、悪天候や植物の病虫害が要因となって2024年の世界のバナナ取引が1%減少したと指摘している。

報告書はまた、いくつかの国での悪天候や熱帯暴風雨による供給量の減少とは対照的に、コロンビア、インド、ベトナムでは生産が増加したことについても言及している。TR4がフィリピンだけでなく、ベネズエラやペルーにも広がり、生産量の減少や病害予防の努力に伴う財政負担につながっていることが懸念材料として浮き彫りになっている。

出典: Inquirer

3. ニュージーランド産リンゴ、オーストラリア産ブドウ等のアジア向け輸出

FreshPlaza(2025年1月24日)

テマタエクスポート社は、ヨーロッパ、北米、中東、インドに青果物を供給しており、北東アジアと東南アジアに重点を置いている。中国、日本、台湾等の主要市場での長年にわたる関係により、同社は信頼できるサプライヤーとしての地位を確立している。同社は、ニュージーランドとオーストラリアのほか、南米、北米、その他の国からも農産物を調達している。

テマタ社の契約生産者達は今週、通常より7~10日

(公財) 中央果実協会**編集・発行所****公益財団法人 中央果実協会**

〒100-0011

東京都千代田区内幸町 1-2-1

日土地内幸町ビル 2階

電話 (03)6910-2922

FAX (03)6910-2923

編集・発行人

今井 良伸

印刷・製本

(有)曙光印刷



毎日くだもの 200 グラム運動

当協会の web サイト

www.japanfruit.jp

本誌についてのご質問、ご意見、お気づきの点がある場合、転載を希望する場合は、上記にご一報願います。

より一層有益な情報発信に努めて参ります。

本誌の翻訳責任は、(公財) 中央果実協会にあり、翻訳に関して、

米国農務省海外農業局

Good Fruit Grower

FreshFruitPortal

FreshPlaza

は一切の責任を負いません。

早く最初の果実を収穫し、ニュージーランドのリンゴの収穫期が始まった。

その品種の中に、ニュージーランド国内では有名な生産者であるケビン・ベイリー氏が開発し、テマタ社が独占するニュージーランド産リンゴ品種「a1」がある。果実全体を包む鮮やかな赤色と歯触りの良い甘い果肉で、シーズン初めの代表的なリンゴとして知られている。

テマタ社のCEOであるサラ・マコーマック氏は、a1は、最も収穫が早い輸出品種の1つになる。ホークスベイ地方の優れた栽培条件により、色の良いきれいな果実が多く収穫された。弊社では数年前からa1リンゴを商業規模で輸出してきたが、栽培面積が増えるにつれて輸出货量も増加している。弊社は、植栽面積の上限を100ヘクタールとすることを決定し、2026年までにすべての果樹を植栽する予定である。今後5年間、生産量は毎年増加し、年間約30万箱に達する」と述べている。(以下「」は同氏の話)

テマタ社のその他の品種はアジア、北米、ヨーロッパに出荷されているが、a1リンゴの主な輸出市場はベトナム、中国、日本である。

ブドウ

テマタ社はまた、オーストラリアとペルーから様々なブドウを輸出している。現在オーストラリアでの収穫が進行中であり、季節の移り変わりに合わせて、供給元をペルー産からオーストラリア産に移行する過程にある。

「日本への全面的な市場参入(オーストラリア産ブドウの品種の限定解除)が承認され、弊社は今年初めて幅広いブドウ品種を日本に提供できることを嬉しく思う。」

同社は独占的なブドウ品種は栽培していないが、主要な栽培パートナーは、品質の高い品種を幅広く提供している。今シーズン、サンレイシア地区の良好な生育条件により、果実のサイズと外観が優れており、当たり年が期待されている。

「収穫中の果実の品質は並外れており、今シーズンの全体的な味と品質には自信を持っている。地域全体の出荷量は昨年に比べて増加しており、昨シーズンの厳しい状況の後で、業界から歓迎されるだろう。」

テマタ社はアジア全域のいくつかの

市場にブドウを出荷しており、日本が最大の市場である。

物流

過去数年間、輸送と物流は、主に輸送の遅延と機材の不足による課題に直面していた。改善が進められている一方で、今年に入っても一部の課題が残ると予想されている。

「すべての主要な輸送パートナーがこれらの問題に対処するため懸命に取り組んでいることを弊社は承知している。一部の輸送業者は遅延を減らすためにスケジュールを調整しているが、その結果、一部の目的地への輸送手段の選択肢が限られ、費用が上昇している。」

「障害はあるものの、弊社のチームは世界中の取引先に高品質な農産物を提供することに引き続き取り組む。今後も輸送パートナーとの強力な関係を活用して、タイムリーで信頼性の高い輸送を確保する。」

ニコラ・マクレガー



タイのフルーツ(著者撮影)

上; フルーツかき氷、

下; マンゴースティッキーライス